

★耐震診断の結果（旧基準の施設）

学校名	建物区分	階数	構造	Is 値	耐震診断実施年度	建築年	備考
壮瞥小学校	体育館	上部	S	0.39	平成 19 年度	昭和 55 年 11 月	耐震補強工事施工予定
		下部	RC	2.65			
壮瞥中学校	校舎	2階	RC	1.13	平成 21 年度	昭和 52 年 1 月	耐震補強不要
		1階	RC	0.79			
	体育館	2階	SRC	0.81	平成 19 年度	昭和 52 年 9 月	耐震補強工事施工予定（※注）
		1階	SRC	1.05			

※町内の小中学校で旧基準の施設は、上記施設のみで、その他の学校施設は新基準により建築された建造物です。

※上記診断結果は、第 2 次診断の結果です。

※注 耐震診断の結果、構造フレームについては目標とする耐震性能を有していると判断されるが、屋根重量を桁行構面に伝達できないので、屋根ブレースの補強が必要と判定されたため補強工事を行う予定としています。

★用語集

1. 「Is 値」

地震に耐えられる能力としての建物の強さ、地震の力を受け流す能力としての建物の粘りの 2 つに、建物の形状・経年変化を考慮して、耐震診断基準による計算式により求められます。Is 値が大きいほど耐震性が高くなります。

過去の地震記録の解析結果より、Is 値が 0.6 以上ある建物は、震度 6 強程度の大地震に対しても建物の倒壊や崩壊する危険性が低いと考えられています。

[Is 値の目安]

Is 値 0.3 未満・・・大規模な地震に対して、倒壊または崩壊する危険性が高い

Is 値 0.3 以上 0.6 未満・・・大規模な地震に対して、倒壊または崩壊する危険性がある

Is 値 0.6 以上・・・大規模な地震に対して、倒壊または崩壊する危険性が低い

※文部科学省では、補強後の Is 値を概ね 0.7 を超えることとしています。

※大規模な地震とは、震度 6 強以上の地震を想定しています。

2. 「旧基準」

昭和 56 年 6 月 1 日の耐震基準見直し以前に用いられた耐震基準により建築された建造物。

3. 「新基準」

昭和 56 年 6 月 1 日に施行された耐震基準により建築された建造物。

4. 「構造」

RC・・・鉄筋コンクリート造、 S・・・鉄骨造